

# sol 事業報告書

## 2019 年度

たくさんの小さな人々が  
たくさんの小さな場所で  
たくさんの小さなことを成す  
それで世界の状況は変えられる

5 月 14

一般社団法人 sol

作成者: 代表理事 中山千春

# 一般社団法人 s o l

## 事業一覧

- ① 多機能型障がい児通所事業所 Atelier MOMO
- ② 認可外保育所 おてんとさん(森のようちえん おてんとさん)
- ③ なんじゃもんじゃ自然体験教室
- ④ わらべの森
- ⑤ つむぎや(高齢者むけ事業)
- ⑥ 地域向けの活動・
- ⑦ 研修その他

☆収支などは税理士さんの作成していただいた決算書を参考によろしくお願いします。



## ①多機能型障がい児通所事業所アトリエモモ

開所時:所属スタッフ

常勤:2名

非常勤:7名

今年度は、当事業が2019・2月に開所したため、実質1年目の事業となる。

児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問からなり、スタッフは常勤2名非常勤6名で構成されている。ひとりから始まった療育利用児も、一年たった3月末では29人登録となり、一日平均6-7名の利用があり、経営的にも、10月ごろには収支と支出がおなじくらいになる。アトリエモモでは療育の主軸であるわらべうた・野外療育・芸術療法も継続。今後は、事業所のある高森町での早期療育に対する認識を高めるための関係づくりや会議の開催・スタッフの質の向上のために研修等を重ね、よりよい、子どもたちと保護者の場作りに徹していく。

とくに、来年度は、児童発達支援事業に力を入れていく予定である。

## ②認可外保育所 おてんとさん（森のようちえん おてんとさん）

所属スタッフ:常勤:1名

6年前、母たちの預け合いを主とした自主保育として実施していた『森のようちえん ほしのこ』。週2回実施していたが、母たちとも1年をかけて相談し、法人として森のようちえんを引き取り、新たに『森のようちえん おてんとさん』として、2019度4月10日に認可外保育所の書類を県に提出。野外活動を中心として保育している。

当保育所はインクルーシブ教育と森での保育とわらべうたを柱としている。他法人との違いとしては、障がい児はアトリエモモの療育の一環として法人交流事業である森のようちえんに参加するスタイルをとっている。そのため、アトリエモモの専門のスタッフと共同で保育・療育をしている。

年度末時点で6名のレギュラー(毎日利用の児童)単発利用の児童・そして5名のアトリエモモ所属の児童も参加。全11名。3月で2名の園児が卒園し、4月より、単発利用あわせて新規の入園者は8名増加。2019年度の事業内容としては、週3日の保育・保護者ミーティング・療育児との継続支援・野外での体験の有効性を実証しながらの保育に努め、2020、2月の熊本県の実地調査に合わせ、場所をたにやまの2階からNPO法人阿蘇フォークススクールの一室をお借りし、保育内容の充実・避難訓練・消防の充実・保育研修・保育年間計画などをおこなうことで、県の指導監督基準をいただくことができました。そのため、2019年度は収益事業として計上していましたが、指導監督基準がクリアできたので、2019年度から非収益事業となり、週4日の保育日数の増加、自治体にも認められ、2020年4月から無償化の対象となる。児童の人数・日数の増加にあわせて、職員も増加。

## ③なんじゃもんじゃ自然体験教室

二年目に入った全ての子供たちにオープンの『生きる力を養う』野外体験教室の事業。今年度は、アトリエモモ開所のためスタッフの人員不足もあり、親子教室は休止とし、小学生以上の子ども教室のみ実施。

月一回、山登りや竹パン作り、ツリーイングや鳥の解体で命の尊さを感じる体験を行う。

高森町・南阿蘇はもちろん、大津町、熊本市からも参加され、20名の児童が登録。スタッフ5-7名でサポートし講師を招いて行った。今年度の事業は熊本県の地域福祉総合支援事業のソフト事業として、助成金をいただきながら実施することができた。

来年度は、この2年間で参加した児童を中心に、長期休み中にブッシュクラフトの講師を呼び、キャンプ形式にて生きる力を育てることにさらに力を入れていきたい。

#### ④ わらべの森

スタッフ:1名

参加者:6~8組

当事業は、9年目に入っているは、昨年までは高森町の子育て支援センターへ伺い実施していたが、今年度からはアトリエモモへ親子に来てもらい実施。月一回、0-3歳の親子対象であるも、5歳も来てしまうので年齢層が広く来年度の対応の課題にもなった。来年度は、ひなたぼっこという0-3歳の森のようちえんの親子組として、親子向けの活動を週一回実施予定のため、そのなかに月一回親子わらべうたを入れていく予定である。

#### ⑤ つむぎや

スタッフ:1名

参加者:5-8名

地域の高齢者との活動で、伝承料理教室やお手玉で認知症予防を1回/月実施していた。そして今年度は、熊本県の地域福祉総合支援事業のソフト事業と絡め、絵本小屋の改修(ハード事業)の後はその場所にてつむぎやをおこなっていた。来年度は、幼稚園児童との交流も増やす予定。新型コロナウイルスの影響にて今後の実施体制は検討中。

#### ⑥ 地域向けの活動

今年度地域向けの活動としては、従来の1回・月の体操教室は高森町の委託事業となり、その他の伝承料理教室などは県の地域福祉総合支援事業のソフト事業助成金を受け、野菜料理教室を5回実施。いろんな野菜もさることながら、キッチンヒバリさんを講師に呼ぶことで野菜のうまみを生かす調味料も知り、参加者の満足度は高かった。

ほかに、絵本小屋の改修(地域福祉総合支援事業 ハード事業)が終わったので、『ヨリドコロとことこ』として、地域の方々へオープンに使用してもらっていた。

地域活動は、2020年度、新型コロナウイルスの影響でどのようにするかは検討中である。

#### ⑧ 研修その他

アトリエモモの開所に伴い、地域の人々と研修を重ねることが地域の人々のより住みやすい地域に代わるのでは?との考えから、2019年10月に児童精神科医の諸江健二先生を福岡よりお呼びし、高森町総合『学童期の発達障害の理解』として、地域に向けて研修を実施。50名以上の方にご参加いただいた。12月には事業所内で諸江先生の事例検討カンファレンスも実施。ケース検討をじっくりすることで、スタッフも今まで

自分たちのしていることが身になっていると充実していた。2020年3月には『子どもの精神疾患 児童精神医学の臨床』と題してご講演いただく予定であったが、新型コロナウイルスの影響で延期とした。2020年度に開催したいが、状況を見て研修予定。

## ★助成金事業

今年度は、熊本県の地域福祉総合支援事業より  
ソフト事業として、なんじゃもんじゃ自然体験教室への講師代・備品他  
諸江先生の公開講座への講師代  
地域への活動としての料理教室代 キッチンひばりさん  
プレイバックシアターワークショップとパフォーマンス 講師代と旅費  
ハード事業として、絵本小屋の屋根と庭の改装費  
を支援していただきました。

## 2020年度の方向性

来年度は、森のようちえんおてんとさんの無償化に伴い、森のようちえんの認知を高めること。そしてアトリエモモでは、早期療育によって保護者や児童をいかに支えその後の療育体制が整うことが実感としてわかったため、さらなる児童発達支援の充実、なによりも新型コロナウイルスの影響で疲れている保護者さんの支援と再度地域の高齢者が安心して利用できる方法を考えること、今実施していることの充実を図ること、スタッフの質の向上に力を入れていきたいと考えています。

来年度も、人と自然と地域を結び、関わる人々が幸せを感じて生きていけるますように。

